

厚生労働大臣 舩添 要一 殿

地方独立行政法人大阪府立病院  
理事長 井上 通敏

大阪府立成人病センターの業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	14 人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	106人	68人	152.6人	看護業務補助	5人	診療エックス線技師	人
歯科医師	人	2人	2.0人	理学療法士	3人	臨床検査技師	64人
薬剤師	17人	5人	21.5人	作業療法士	人	衛生検査技師	3人
保健師	4人	人	4.0人	視能訓練士	人	その他	人
助産師	人	人	人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	424人	10人	430.1人	臨床工学技士	2人	医療社会事業従事者	2人
准看護師	11人	6人	15.8人	栄養士	人	その他の技術員	2人
歯科衛生士	人	人	人	歯科技工士	人	事務職員	69人
管理栄養士	1人	2人	2.8人	診療放射線技師	34人	その他の職員	99人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数  
 歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	461.8 人	0 人	461.8 人
1日当たり平均外来患者数	1116.8 人	0 人	1116.8 人
1日当たり平均調剤数	入院 523.5剤	外来 102.4剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

## 1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨又は頭蓋骨の観血的移動術	有・無	人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	人
・溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法	有・無	人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・無	人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	人
・人工中耳	有・無	人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	有・無	人
・性腺機能不全の早期診断法	有・無	人
・経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	有・無	人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・無	人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・無	人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・無	人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・無	人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	人
・筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・無	人
・SDI法による抗がん剤感受性試験	有・無	人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・無	人
・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	有・無	人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・無	人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・無	人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・無	人
・抗がん剤感受性試験	有・無	人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・無	人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・無	人
・腹腔鏡下肝切除術	有・無	人
・画像支援ナビゲーション手術	有・無	人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・無	人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・無	人
・成長障害のDNA診断	有・無	人
・生体部分肺移植術	有・無	人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・無	人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・無	人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	①有・無	126人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・無	人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・無	人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・無	人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・無	人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・無	人
・鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・無	人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・神経変性疾患のDNA診断	有・無	人
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有・無	人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・無	人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・無	人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	人
・カフェイン併用化学療法	有・無	人
・31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・無	人
・特発性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	有・無	人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・無	人
・遺伝性コプロポルフィン症のDNA診断	有・無	人
・固形腫瘍(神経芽腫)のRNA診断	有・無	人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・無	人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・無	人
・臍腫瘍に対する腹腔鏡補助下臍切除術	有・無	人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	人
・高発がん性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	有・無	人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・無	人
・Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・無	人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・無	人
・抗がん剤感受性試験(CD-DST法)	有・無	0人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有・無	人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・無	人
・樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	有・無	人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・無	人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・無	人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・無	人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・無	人
・頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術(CT透視下法)	有・無	人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・無	人
・活性化血小板の検出	有・無	人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・無	人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・無	人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	人
・末梢血幹細胞(CD34陽性細胞に限る。)による血管再生治療	有・無	人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・無	人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・無	人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・無	人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・無	人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・無	人
・自己腫瘍(組織)を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
・自己腫瘍(組織)及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人

高度先進医療の種類(歯科)	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	有・無	人
・顎顔面補綴	有・無	人
・顎関節症の補綴学的治療	有・無	人
・歯周組織再生誘導法	有・無	人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・無	人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・無	人
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有・無	人
・レーザー応用による齶蝕除去・スケーリングの無痛療法	有・無	人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・無	人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・無	人
・耳鼻いんこう科領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・無	人
自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術(PPH)	有・無	人
画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・無	人
強度変調放射線治療	有・無	人
胎児心超音波検査	有・無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・無	人
画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・無	人
インプラント義歯	有・無	人
顎顔面補綴	有・無	人
人工中耳	有・無	人
歯周組織再生誘導法	有・無	人
抗がん剤感受性試験	有・無	人
腹腔鏡下肝切除術	有・無	人
生体部分肺移植術	有・無	人
活性化血小板の検出	有・無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・無	人
超音波骨折治療法	①有・無	/ 人
眼底三次元画像解析	有・無	人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・無	人
X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・無	人

(注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

3 先進医療で上の表に掲げているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

## 2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	1人	・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	2人
・多発性硬化症	9人	・ウェゲナー肉芽腫症	0人
・重症筋無力症	14人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	47人
・全身性エリテマトーデス	1人	・多系統萎縮症	2人
・スモン	1人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人
・再生不良性貧血	24人	・膿疱性乾癬	0人
・サルコイドーシス	14人	・広範脊柱管狭窄症	3人
・筋萎縮性側索硬化症	0人	・原発性胆汁性肝硬変	19人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	6人	・重症急性膵炎	0人
・特発性血小板減少性紫斑病	45人	・特発性大腿骨頭壊死症	1人
・結節性動脈周囲炎	1人	・混合性結合組織病	2人
・潰瘍性大腸炎	28人	・原発性免疫不全症候群	0人
・大動脈炎症候群	5人	・特発性間質性肺炎	1人
・ピュルガー病	0人	・網膜色素変性症	7人
・天疱瘡	0人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	17人	・原発性肺高血圧症	0人
・クローン病	0人	・神経線維腫症	4人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・亜急性硬化性全脳炎	人
・悪性関節リウマチ	0人	・バンド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・パーキンソン病関連疾患	37人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	0人
・アミロイドーシス	3人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	0人
・後縦靭帯骨化症	10人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	0人		

(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年10回		
剖検の状況	剖検症例数	34 例	剖検率 20.9 %

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元	
地域がん登録精度向上と活用に関する研究	津熊 秀明	調査課長	21,000	補委	厚生労働省
保健・医療機関受診者を対象とした禁煙支援方法の開発と評価に関する研究	田中 英夫	疫学課長	10,882	補委	厚生労働省
喉頭機能を温存した頭頸部がんの標準的治療法の確立に関する研究	吉野 邦俊	耳鼻咽喉科主任部長	11,432	補委	厚生労働省
頭頸部がん治療の標準化に関する研究	吉野 邦俊	耳鼻咽喉科主任部長	800	補委	厚生労働省
骨転移の標準的治療指針確立の研究	荒木 信人	整形外科部長	1,200	補委	厚生労働省
臨床病理像からみた早期肺がんの治療法に関する研究	児玉 憲	診療局長	1,200	補委	厚生労働省
がん専門医療施設における臨床教育体制の整備とその評価法の開発に関する研究	今岡 真義	総長	800	補委	厚生労働省
大腸がん術後感染症予防に関する研究	大植 雅之	消化器外科副部長	800	補委	厚生労働省
臨床的予後因子による肝転移予測	大植 雅之	消化器外科副部長	700	補委	厚生労働省
悪性胸膜中皮腫に対する外科治療法に関する研究	東山 聖彦	呼吸器外科主任部長	1,400	補委	厚生労働省
薬物療法に伴う乳がん患者の骨塩量の推移	菰池 佳史	乳腺・内分泌外科医長	1,200	補委	厚生労働省
地域がん専門診療施設のソフト面の整備拡充に関する研究	淡田 修久	副院長	1,000	補委	厚生労働省
乳房温存法の適応の適正化の検討	稲治 英生	乳腺・内分泌外科主任部長	1,100	補委	厚生労働省
放射治療臨床試験の特殊性に関する研究	田中 英一	放射線治療科医長	1,000	補委	厚生労働省
進行肺がんに対する化学療法	今村 文生	呼吸器内科部長	700	補委	厚生労働省
がん登録における情報ネットワークの活用に関する研究	井岡 亜希子	調査課主査	1,400	補委	厚生労働省
肺がん検診の適切な方法とその評価法の確立に関する研究	中山 富雄	疫学課参事	1,000	補委	厚生労働省
肺がんの臨床病理学的研究	塚本 吉胤	病理細胞診断科副部長	800	補委	厚生労働省
がん治療におけるIRVの技術向上と標準化に関する研究	杉原 英治	放射線診断科診療主任	500	補委	厚生労働省
狭帯域フィルタ内視鏡装置を用いた拡大観察による陥凹型胃癌の早期診断についての研究	竹内 洋司	消化器内科診療主任	500	補委	厚生労働省
効果的な禁煙支援法の開発と普及のための制度化に関する研究	大島 明	調査部長	25,600	補委	厚生労働省
革新的な診断技術を用いたこれからの肺がん検診手法の確立に関する研究	鈴木 隆一郎	研究所特別研究員	16,800	補委	厚生労働省
新しい診断機器の検診への応用とこれらを用いた診断制度の向上に関する研究	中山 富雄	疫学課参事	3,000	補委	厚生労働省
がん医療経済と患者負担最小化に関する研究	中山 富雄	疫学課参事	800	補委	厚生労働省
地域がん登録の法的倫理的環境整備に関する研究	田中 英夫	疫学課長	580	補委	厚生労働省
がん罹患、死亡動向の実態把握の研究	津熊 秀明	調査課長	2,905	補委	厚生労働省
がん検診に有用な新しい腫瘍マーカーの開発	井岡 達也	消化器検診科副部長	2,000	補委	厚生労働省
高悪性度軟部腫瘍に対する標準的治療法の確立に関する研究	荒木 信人	整形外科部長	1,800	補委	厚生労働省
頭頸部がんの頸部リンパ節転移に対する標準的手術法の確立に関する研究	藤井 隆	耳鼻咽喉科副部長	1,600	補委	厚生労働省
がん患者の心のケア及び医療相談等のあり方に関する研究	柏木 雄次郎	脳神経科部長	200	補委	厚生労働省

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)		補助元又は委託元
浸潤性膀胱がんの予防改善をめざした集学的治療の研究	小野 豊	泌尿器科医長	500	補委	厚生労働省
高度進行胃がんの治療に関する研究	宮代 勲	消化器外科副部長	1,400	補委	厚生労働省
早期消化管がんに対する内視鏡的治療の安全性と有効性の評価に関する研究	飯石 浩康	診療局長	1,000	補委	厚生労働省
早期前立がんにおける根治術後の再発に対する標準的治療法の確立に関する研究	宇佐美 道之	泌尿器科主任部長	300	補委	厚生労働省
切除不能Ⅲ期非小細胞肺癌に対する標準的治療法の確立に関する研究	今村 文生	呼吸器内科部長	700	補委	厚生労働省
局所限局小細胞肺癌の集学的治療に関する研究	今村 文生	呼吸器内科部長	1,500	補委	厚生労働省
再発小細胞肺癌に対する標準的治療法の確立に関する研究	今村 文生	呼吸器内科部長	600	補委	厚生労働省
大腸がん肝転移症例の術後補助化学療法に関する研究	大植 雅之	消化器外科副部長	1,000	補委	厚生労働省
地域がん診療拠点病院の機能向上に関する研究	津熊 秀明	調査課長	1,000	補委	厚生労働省
再発高危険群の大腸がんに対する術後補助化学療法に関する研究	大植 雅之	消化器外科副部長	1,000	補委	厚生労働省
臨床病期Ⅲの下部直腸がんに対する側方リンパ節郭清術の意義に関するランダム化比較試験	大植 雅之	消化器外科副部長	1,500	補委	厚生労働省
第Ⅳ期食道がんに対する標準的治療法の確立に関する研究(H17-がん臨床一般-007)	矢野 雅彦	消化器外科副部長	500	補委	厚生労働省
肉腫および悪性中皮腫を標的破壊する腫瘍溶解性ウイルスベクターのシードストックおよび臨床ロットの製造とその安全性・有効性に関する研究	高橋 克仁	研究所病態生理学部門長	18,788	補委	厚生労働省
疾患関連たんぱく質解析研究事業	今岡 真義	総 長	30,000	補委	厚生労働省
輸血後肝炎に関する研究	田中 英夫	疫学課長	10,000	補委	厚生労働省
がんの早期診断および予後診断に役立つ腫瘍マーカーの開発	東山 聖彦	呼吸器外科部長	250	補委	厚生労働省
臨床試験に向けた難治性肉腫標的破壊ウイルスの全構造決定とシードセルストックの作成	高橋 克仁	研究所病態生理学部門長	8,900	補委	文部科学省
染色体の増幅・欠失の網羅的検出解析による多発及び再発肝細胞癌の遺伝子診断の確立	小泉 恭子	研究所免疫学部門特別研究員	900	補委	文部科学省
難治性肉腫および悪性中皮腫に対する標的遺伝子療法の開発	山村 倫子	研究所主任研究員	2,500	補委	文部科学省
核内ドメインへ蛋白をシャトルする新規蛋白MORC3とそのファミリー	井上 徳光	研究所分子遺伝学部門長	3,200	補委	文部科学省
核内ドメインを制御するMORC3の機能とがん	井上 徳光	研究所分子遺伝学部門長	2,300	補委	文部科学省
がんの浸潤過程を制御する2つの機構—上皮間葉移行と細胞運動能の調節に関する	伊藤 和幸	研究所生物学部門長	4,200	補委	文部科学省
骨芽細胞の運動制御と臨床応用	伊藤 和幸	研究所生物学部門長	1,700	補委	文部科学省
骨軟部腫瘍の進展に関与する分子SSXを標的とした治療法の開発	吉岡 潔子	研究所生物学部門主任研究員	2,200	補委	文部科学省
mTORシグナルを介した癌の低酸素耐性機構の解析	井上 正宏	研究所生化学部門長	1,400	補委	文部科学省
mTORシグナルの操作による低酸素標的と放射線治療効果の検討	向井 睦子	研究所生化学部門主任研究員	1,300	補委	文部科学省
プロテオーム及びN型糖鎖構造解析を用いた癌転移関連たんぱく質の同定	宮本 泰豪	研究所免疫学部門総括研究員	1,000	補委	文部科学省

計57件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Gastric Cancer, 9:262-270, 2006	A multicenter retrospective study of endoscopic resection for early gastric cancer.	Iishi H	消化器内科
Digestive Endoscopy (2006) 18 (Suppl. 1), S131-S136	A NOVEL AUTOFLUORESCENCE VIDEOENDOSCOPY IMAGING SYSTEM FOR DIAGNOSIS OF CANCERS IN THE DIGESTIVE TRACT.	Uedo N	消化器内科
GASTRIC CANCER. 9:88-92(2006)	LONGTERM OUTCOMES AFTER ENDOSCOPIC MUCOSAL RESECTION FOR EARLY GASTRIC CANCER.	Uedo N	消化器内科
Endoscopy 2006; 38 (8) : 819-824	A new method of diagnosing gastric intestinal metaplasia: narrow band imaging system with magnifying endoscopy.	Uedo N	消化器内科
Virchows Arch. 2006 ; 449: 652-9	Histological risk markers for non-cardia early gastric cancer : Pattern of mucin expression and gastric cancer.	Uedo N	消化器内科
Aliment Pharmacol Ther. 2006 ; 24 Suppl 4: 71-80.	Helicobacter pylori-induced atrophic gastritis progressing to gastric cancer exhibits sonic hedgehog loss and aberrant CDX2 expression.	Uedo N	消化器内科
J Cancer Res Clin Oncol. 132 : 627-633 (2006)	Expression and prognostic role of RhoA GTPases in hepatocellular carcinoma.	Imanaka K	消化器内科
医学書院、:2006年、257-269	消化器内視鏡ガイドライン	飯石 浩康	消化器内科
消化器内視鏡. 18 (5) :660-664 (2006)	レジデントのための内視鏡診療マニュアル	東野 晃治	消化器内科
消化器内視鏡ガイドライン(第3版)	色素内視鏡ガイドライン	上堂 文也	消化器内科
消化管Network、7巻4号84-85	狭帯域フィルタ内視鏡による咽頭・食道癌の診断	上堂 文也	消化器内科
Journal of Thoracic Oncology. 1(4) :314-318 (2006)	Improved Diagnostic Efficacy by Rapid Cytology Test in Fluoroscopy-Guided Bronchoscopy.	Uchida J	呼吸器内科
Lung Cancer. 53(1) : 91-96 (2006)	Prognostic value of expression of vascular endothelial growth factor and its flt-1 and KDR receptors in stage I non-small-cell lung cancer.	Higashiyama M	呼吸器内科
Clin Lung Cancer. 8(3): 208-213 (2006)	Gemcitabine/carboplatin in a modified 21-day administration schedule for advanced-stage non-small-cell lung cancer.	Imamura F	呼吸器内科
Strahlenther Onkol. 182(12) : 703-707 (2006)	High-Dose-Rate Brachytherapy for Small-Sized Peripherally Located Lung Cancer.	Imamura F	呼吸器内科
Acta Cytol. 50(4) : 444-6 (2006) .	Rapid staining with the modified Gill-Shorr method for reliable, rapid bronchoscopic diagnosis.	Ueno K	呼吸器内科
J Thorac Oncol. 1(4): 314-8 (2006).	Improved diagnostic efficacy by rapid cytology test in fluoroscopy-guided bronchoscopy.	Uchida J	呼吸器内科
Am J Pathol. 2006 Sep;169(3) : 954-66.	B-lymphocyte depletion reduces skin fibrosis and autoimmunity in the tight-skin mouse model for systemic sclerosis.	Uchida J	呼吸器内科
日本胸部臨床. 65 (4) :375-384 (2006. 04)	IgG- $\lambda$ 型モノクローナル蛋白血症を認めた肺原発MALTリンパ腫の1例	今村 文生	呼吸器内科
肺癌. 46 (4) :345-352 (2006. 08)	ゲフィチニブ (イレッサ) の非盲検多施設国際共同による長期継続投与試験	今村 文生	呼吸器内科
Intn J Hematol. in press	Donor cell-derived leukemia with t(7;11)(p15;p15) after a cord blood transplantation in a patient with Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia.	Mitsui H	血液・化学療法科
Intn J. Hematol. 84 : 367-376 (2006)	Expression of CD27 on peripheral CD4+ T-lymphocytes correlated with the development of severe acute versus host disease after allogeneic bone marrow transplantation.	Yoshida H	血液・化学療法科
日本化学療法学会雑誌. 54(S-1) : 32-47 (2006)	深在性真菌症患者に対するitraconazole注射薬およびカプセル薬順次投与の有効性	平岡 諱	血液・化学療法科
成人病と生活習慣病・37 : 147-151 (2007)	外来化学療法治療継続中の日常診療注意点	吉田 均	血液・化学療法科
Diseases of the esophagus. 19 : 73-77 (2006)	Prognosis of patients who develop cervical lymph node recurrence following curative resection for thoracic esophageal cancer.	Yano M	消化器外科